

教育のスタンダードを上げる

私たちの学校は2000年から英語によるイメージ教育を実施してきました。これは英語力に特化したものではなく、教育全体の質を世界に通用するレベルに引き上げる、それをスタンダードとした教育を進めていくための第一歩でした。スケールの大きい人間の魅力に富む生徒を育てていくには、教育課程を構築する私たちの目線を上げなければなりません。麓から小高い山の頂を見上げてばかりでは雄大な自然の全体像は見えてこないのです。今取り組んでいることが何につながるのか、世界に通用するものなのか、人類社会の持続的な発展にどうつながるのか等、子供たちの価値観に迫る大きな問いを準備しておかなければならないと思います。

国際バカロレアでは、生徒に対し教員が“答え”を与えるのではなく“問題”を与えます。質問する態度を奨励し、暗記よりも批判的思考を評価します。知識を拡大することよりも理解力の向上を重視し、自分の頭で考え、疑問点を洗い出し、論理的に自分なりの考えを構築することが要求されます。

本校では、高大一貫教育の仕組みを活用して、そのような学習を、部分的ですが、意識的に組み込んできました。また、SELコースを設け、英語による履修を拡大し、Global Historyや「アジア太平洋現代社会」、カナダ・ブリティッシュコロンビア大学や立命館アジア太平洋大学との連携講座、課題論文作成やリーダー育成のための研修プログラム等も実施し、国際水準の教育という山の頂に向かって一歩ずつ前に進んできました。

● 2010年4月、国際バカロレア・ディプロマプログラム (IBDP) 実施へ

本校は2010年4月からIBDPの教育を開始します。現在、138カ国75万人以上の生徒に履修されている国際バカロレアの教育プログラムでは、目指すべき学習者像 (Learner Profile) が教育の中核におかれ、学習活動全体を包括した知的探究の領域と関心が明確に示されています。また、IBDPでは、6つの学習領域と教育内容、「知識の理論」や「創造性・活動・貢献」「課題論文」といった教育全体が生徒の意識を世界に向かって開かせるものになっています。IBDP (学位) 資格取得基準も明確で非常にレベルの高いものです。ディプロマを取得すれば世界90カ国以上の有数な大学に応募できる資格を得ますが、それは大学に入ることだけを目的とした知識獲得偏重の学習とは全く次元の異なるものです。

● 本校のIB教育は“3乗倍”の魅力 ＝日本の教育×バイリンガル教育×IBディプロマ

本校は高大一貫教育を特徴とする国際色豊かな学校ですが、そこで展開するIBDPでは、1) 学校でアカデミックな言語としての日本語と文化を身につけ、2) 同時に英語によるバイリンガル教育を受けることができる上に、3) 国際バカロレア学位の取得もできる“一粒で3回おいしい”欲張りなプログラムを提供します。それが本校のAIPコースの特徴であり、日本でIBDPを取得する価値だと思います。また、本校で学んだ後、多くの生徒が欧米の大学やアジア各国の大学へ進学すると思いますが、国内の高校生と同様に日本の高校卒業資格はもちろん、附属校生として立命館大学やアジア太平洋大学への内部推薦資格も与えられます。

日本では、ようやく大学教育で国際化拠点整備事業 (グローバル30: 国内で13大学が指定を受け立命館大学もその一つ) が策定され、「国際競争力の強化及び留学生等に魅力的な水準の教育等を提供するとともに、留学生と切磋琢磨する環境の中で国際的に活躍できる高度な人材の養成を図ることを目的」とした取り組みが国・公・私立大学で開始される段階ですが、IBDPはその何十歩も先を歩んでいます。

本校は、このIBDP教育の開始を契機に学校全体にこの優れた教育内容を提供できるように改革を続け、国際的な高いスタンダードに立つ教育として、他のインターナショナルスクールやIBスクールと協力し、優れた教育内容を日本全体に広げていきたいと考えています。

本校の取り組みは、これからも本冊子を通じて読者の皆様に時々様子をお伝えしていければと考えておりますので、ご意見やご要望等がございましたらお気軽に本校までお寄せください。

立命館宇治中学校・高等学校

〒611-0031 京都府宇治市広野町八軒屋谷33-1

TEL: 0774-41-3000 FAX: 0774-41-3555

HP: www.ritsumeit.ac.jp/ujc E-mail: uji-returnee@ujc.ritsumeit.ac.jp



大学付属校の立場に甘んじることなく、「日本の教育の枠組みをこえて」、新しい教育を展開する立命館宇治中・高の言葉です。

4月からのIBディプロマで、日本の教育も含めた「3乗倍」の教育のスタートです。これは、日本の正規の学校 (一条校)、さらには大学付属校だからできる教育です。帰国生だけではなく、国内生の新しい教育のチョイスとして、教職員の皆様、がんばってください。

昨年4月に着任された汐崎校長は、久しぶりの帰国子女教育への復帰です。かつて教育フェアにも参加して、北米の中高生の実態もよくご存知です。先生、北米の生徒・保護者のために、元気でがんばってください。